

隣人を愛する

上田祐一郎

奨励者紹介〔うえだ・ゆういちろう〕

同志社女子中学校・高等学校 情報科・数学科教諭

ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』

（マタイによる福音書 22 章 34-39 節）

同志社女子中高（以下、同女とします）で「情報」の教員をしています、上田祐一郎と申します。本日は、大学の礼拝で、更に言えば創立記念礼拝という記念の礼拝で、こうしてお話をさせていただく機会を与えられましたこと、感謝しています。また本日の礼拝のように、同女の卒業生が大学でも礼拝の時を大切に守ってくれていることに、何とも言えない嬉しさを感じたりします。

さて、本日の礼拝は「創立記念礼拝」ということです。ご存知の通り、同志社は来年度の 11 月 29 日で創立 150 周年を迎えます。法人では 150 周年に向けて、様々な企画が実施され、また来年度のその日に向けての準備が進められています。私はこの 150 周年記念のプロジェクトメンバーのひとりでもあり、この数年間プロジェクトが主催してきた様々な企画にかかわらせていただきました。この詳細はぜひ 150 周年記念ホームページをご覧くださいと思いますが、その中に、約 2 年前に実施しました「同志社人による写真&メッセージ」と題した企画があります。これは、「あなたにとって、“同志社が掲げる良心”、“キリスト教に基づく良心”とは何ですか？」という問いに対するメッセージをボードに書いていくというものです。

“良い心”と書く「良心」。「同志社が掲げる良心」について、ここに集う皆さんなら、どのようなことを思い浮かべるのでしょうか。創立者新島襄は、学問の探求とともにキリスト教を徳育の基本とした人格教育をめざし、「一国の良心」となる人物の育成を志しました。キャンパス内にある良心碑にも刻まれているように、これは同志社の教育理念として今日まで大切に受け継がれています。一方で、実は同女を含む女子部では、この「良心」という言葉はあまり馴染みがなく、キリスト教教育の中でもあまり触れることのない言葉です。ですので、この企画を同女の生徒に依頼したときには、「『同女が皆さんに大切にしてほしいと考えていること』、『同女での学校生活を通して学んだこと』、などに置き換えてみましょう」と伝え、約 20 名の生徒が答えてくれました。生徒たちのメッセージを確認してみると、「人のために」や「思いやりや優しい心」など、「相手に寄り添う気持ち」を表現したものが多く、中でも「隣人愛」という言葉が特に目立っていたように記憶しています。

この「隣人愛」という言葉。同女では、中 1 の 5 月に実施している 2 泊 3 日の「修養

会」に始まり、学校生活のさまざまな場面で意識することになる、同女の教育で大切にしている言葉の一つです。「隣人愛」のことを、「それぞれの違いを認め合い、弱い立場の人に寄り添うこと」、「その人の立場になって考え、自分がその立場でもらってうれしいことをすること」と多くの生徒たちは表現します。「同女での学校生活を通して学んだことは『隣人愛』だ」と言える生徒が多くいることに感動を覚えるのと同時に、ほんとに「豊かで暖かい心」を持った生徒たちだなと感心させられます。

私にとっては、このようなプチ感動を与えられた企画だったのですが、実は「隣人愛」とは別にもうひとつ、生徒のメッセージの中で私が注目したものがありました。それは「Love Myself」というメッセージです。「隣人を愛する」ではなく「自分を愛する」。一見すると「隣人愛」とは真逆のことを言っているように思うメッセージです。しかし本日の聖書箇所をもう一度読んで見ると、「隣人を自分のように愛しなさい」と書かれているのです。「隣人を愛しなさい」に対して「自分のように」という言葉が付け加えられています。「隣人を愛しなさい」ということとともに「自分を愛しなさい」と言われているのではないだろうか、と改めて考えさせられるわけです。

私たちはしばしば、「相手のイヤな部分は受け入れよう」と努力する一方で、「自分のイヤな部分は簡単に否定したり、新たな自分を手に入れよう」としたりします。「相手のことを認める」ということを大切にする一方で、「自分のことを認める」ということから逃げてしまいがちです。がしかし、神様は私たち一人一人を等しく愛してくださり、すべての人の価値を認めてくださっています。自分に与えられたモノに目を向けられない私たちですが、自分自身の価値を信じて大切にすること、そのために自分自身と向き合うことができて初めて、相手とも向き合えるのかもしれません。

実は、先に紹介した中 I で実施している「修養会」のテーマも、「“自分を見つめて”、友達を理解して隣人になろう」なのです。「自分を見つめる」ということ。難しいテーマではありますが、私たちには、そのための時間が毎日与えられていると私は思っています。それはまさに今、「礼拝の時間」ではないでしょうか。同女では、全校生徒に毎朝礼拝の時間が与えられ、オルガンの音色や賛美歌とともに、様々な聖書箇所と先生のお話を聞くことができます。そのお話に対しては、当然、共感できるときもあれば、そうではないときもあるかもしれません。しかし、そのときの感情がどうであったとしても、毎朝の礼拝を通して自分と向き合うことで、それぞれが抱えている状況に対して何かを感じ取る機会が与えられています。この時間を通して、自分の周りにいる人も自分と同じように神様から愛されている存在だという気付きと、お互いを大切にすることによって繋がるきっかけになればと思うのです。

同女では、「自分を見つめる」ということを大切に、このことを通して、隣人愛を育む教育を行っています。もちろんこれは同女に限らず全同志社でも言えることでしょう。創業者新島襄は創立記念の式辞の中で「人一人ハ大切ナリ」という言葉を残していますが、私たち自身もひとりの人として大切な存在であり、一人ひとりの個性と人格を尊重する同志社の教育姿勢は現在も変わらず続いています。中高と大学とでは環境は異なるかもしれませんが、忙しい中でも、このような礼拝の時間を大切にしていだければと思います。そして、自分を心から受け入れ、自分と同じように周りの人を愛することができる同志社人へと成長していただければと願っています。

